

静岡新聞 2024年11月6日付

論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

大阪で行われた四天王寺ワッソというお祭りに参加してきた。ワッソとは韓国語で「来た」という意味だそうだ。韓国から日本への歴史的な往来をお祭りの中の巡行として取り上げることで、日韓の歴史的な関係の理解を深めようという狙いを持っている。四天王寺は聖徳太子が建立した日本最初の官寺であるが、聖徳太子の時代にも朝鮮半島から多くの文化が渡来してきた。この祭りは35年前から始められ、現在まで毎年行われている。日韓関係にはいろいろな難しい問題があるが、そうしたことを乗り越えて日韓交流を深めていきたい。そうしたい思いで、関西の経済界や在日韓国人の人たちが始めたお祭りである。35年も続くお祭りになったことで、多くの人が集まり、地元のテレビなど

日韓交流への理解願う「ワッソ」

でも取り上げられている。開会式には日本の総理と韓国の大統領のメッセージが寄せられ、地元の高校などからも多くの参加がある。

今回のこの祭りを見ていて印象的だったのは、若者のグループによるKポップの参加がいくつもあったことだ。Kポップの歌や踊り、そして韓国ドラマなどの韓国版のエンターテインメント産業は、半導体と自動車に次ぐ韓国第三の輸出産業になっているそうだ。日本の若者にもすっかりと浸透しているようで、韓国の若者に混じって日本の若者も熱の入った歌や踊りを披露していた。

日本と韓国は隣の国であるが故に、領土問題や歴史問題などの難しい問題を抱えている。現在は韓国の大統領が親日的な姿勢を示しているのが領土問題や歴史問題が前面に出ることは少なく、日韓関係は安定的である。ただ、5年に一度大統領が代わる韓国の政治制度の下では、大統領が代わると日韓関係がギクシャクして行くことが多い。現在の野党が次の大統領選挙では有利な位置にあるといわれているが、これは日韓関係にとっ

て韓国から批判的な声が多く出てくることに懸念される。

こうした政治的な軋轢を緩和するためには、民間レベルでの交流を深めていく必要がある。人々の交流が深まり広がることで、政治的な軋轢を緩和することができるはずだ。Kポップの歌や踊りに夢中になっている若者にとって、領土問題や歴史問題はど

うでもよいことだろう。それどころか歌や踊りを通じて、韓国の文化により強い関心を持つ若者も多いだろう。韓国語を学びたいと考える若者も増えているようだ。韓国の方でも同じだ。近年、多数の韓国の若者が観光客として日本に来る。日本のファッションや店舗に引き付けられ、日本食に魅了される。政治によって作られた反日感情に踊らされるのではなく、実物の隣の韓国の現実に触れる。日本の実像に魅了される韓国の若者も多いはずだ。

隣国である日本と朝鮮半島は1400年以上の深い関係を築いてきた。歴史の中では、両国が緊張関係にあった時期もあったがそれは一時期である。長い目で見れば両国の交流は深いものであった。これが四天王寺ワッソのメッセージである。